

第3学年 外国語科（英語）学習指導案

日 時：平成28年1月26日（火）第5限目

場 所：多目的室

授業者：小松原 智恵

1. 単元名 Unit 6 Break the Barrier (*NEW HORIZON English Course 3*)

2. 単元の目標

- ・自分の興味や関心のある偉人や有名人等についてまとまりのある文章を書く。 【外国語表現の能力】
- ・辞書を使ったり、友だちの表現を参考にしたりしながら積極的に文章を書く。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・接触節や関係代名詞を使った文の構造を理解する。 【言語や文化についての知識・理解】

3. 学習の基盤

(1) 教材観

本単元では、世界の偉人についてレポートをまとめるという題材を取り上げている。主人公のさくらが、英語の授業の課題で世界の偉人の一人を選びレポートを書くことになった、という設定である。さくらはメジャーリーグで活躍したジャッキー・ロビンソンを選び、人物事典で彼の生涯や業績について調べて情報を書きだしていく。ロビンソンは大リーグの歴史を塗り替え、アメリカの人種差別に一石を投じた人であり、人権や平和を考えるうえで取り上げる価値のある人物である。

言語材料としては接触節や関係代名詞が新出である。これらは生徒にとって文の構造や語順を理解するのが難しく定着するのに時間がかかると思われる。理解を助けるためには、既習の文法事項である不定詞の形容詞的用法や、現在分詞・過去分詞の句による名詞の後置修飾などと関連付けながら説明することが必要だと考える。また、これらの新出言語材料が加わることで、人や物についてより詳しい説明をすることが可能となる。これまでの単文が並んだ文章と違って、より高度な文になるが、このようなまとまりのある文章を読んだり書いたりすることをとおして、正しい語順の理解と定着や文の脈絡を考えた文章の構成について指導できると考える。

(2) 生徒について

本学級は12人（男子4名、女子8名）で構成されている。全体的に明るく穏やかな雰囲気の中で英語の授業に取り組んでいる。男女の仲も良く、ペア活動やインタビュー、グループ活動では女子が男子をリードしながら活動が進むことが多い。生徒は昨年度から国語や社会、理科の学習の中で、図書館の資料を使って調べ学習をし、レポートにまとめ、プレゼンをする活動をしてきている。その積み重ねのおかげで、資料を読み取り、必要な情報は情報カードに記入して、それらを活用してレポートを仕上げる、という流れには慣れてきている。

授業では、帯活動でのQ&Aや基本文リストの音読練習などを継続してきたことで、基礎・基本の力を身に着けた生徒もいる。また、昨年度から帯活動の一つに読解練習を取り入れており、問われたことに対する答えをまとまりのある文章の中から見つけてアンダーラインをひく活動をしている。この活動を始めてから、苦手としていた長文の内容を大まかにではあるがつかめるようになったと感じている生徒もいる。1年生の時から家庭学習のメニューを示して、毎日自学ノートの提出をさせているが、単語や基本文の練習に限らず、日記を

書いたり、ALTへの質問を書くなど工夫をしながら自主的に学習に取り組んだりする生徒が多い。中には英検やコンテストへの参加をとおして英語に高い意欲を示す生徒もいる。

英語を書くことについての指導は、日本文化を紹介する文や修学旅行記、その意見に対して自分は賛成・反対どちらの立場なのかをまとめて書く活動などに取り組んできた。興味や関心のある言語活動を設定することで、英文を書くことに対するモチベーションは高まったが、実際に書き始めてみると毎回様々な課題が出てくる。日本語の語順のままに英語を書いてしまう、既習の表現をうまく使って自分の言いたいことを表現できない、また、文全体の脈絡を考えずに文を並べてしまう、といったことが主な課題である。今後もALTにチェックしてもらったり、生徒同士でお互いにアドバイスしあったりしながらコツコツと取り組んでいく必要があると考えている。

(3) 指導観

本単元では、単元の目標として自分の興味や関心のある偉人や有名人等についてまとまりのある文章を書く、という言語活動を設定する。本単元をとおして、内容的にまとまりのある文章を適切に書く力を身につけさせたい。そのためには、まず新出の言語材料が確実に定着することが必要であり、文を書いていくためのスモールステップを設ける必要があると考える。

まとまりのある文章を適切に書いていくための指導として、まず生徒たちが書く目的を意識して取り組めるようモチベーションを高めたい。2学期の始めに赴任してきたALTは、2校兼務のため常駐ではないが、生徒たちと年齢も近く、学生のころから日本に興味をもっている。その彼女から有名な日本人について知りたいという要望があったという設定で、生徒たちそれぞれが紹介したい人物を選び、まとまりのある文章に写真やイラストなどを添えてレポートを作成し、紹介するという言語活動を設定した。

スモールステップとしては、まずペンタゴンチャートを使って紹介する人物についての情報を集め、それらの情報をもとに辞書を使いながら英文を書いていく。ペア活動やグループ活動をすることで、それぞれの書いた文章をグループや学級全体で共有し、友だちの表現を参考にできるような活動を取り入れる。さらに教師がモデル文を示しながら、読み手が読みたいと感じるような書き出しや相手に伝わりやすい文章、文と文のつながりや脈絡を考えたままとまりのある文章について考えさせたい。自分たちのもっている英語の表現力と日本語の表現力の差が大きく、自分の言いたいことを英語にするのは難しいと感じる生徒が多いが、簡単な日本語に言い換えれば既習の英語表現を使って表現できることがたくさんある。難易度の高い学習活動ではあるが、スモールステップを丁寧に踏んで単元の目標を達成したい。

4. 本実践とキャリア教育

本実践では、図書資料を使って、紹介したい人物についての情報を集め整理・選択し、さらにALTに紹介するために英語に直していかなければならない。また、レポートは、相手が読みたいと思えるような英文の書き出しや、わかりやすい内容になるような脈絡を考えながら作成していく必要がある。このような活動をとおして、情報を主体的に選択し活用する力や見通しをもって課題に取り組む力をつけさせたい。

【見通しをもって計画・実行する力（課題対応能力）】

5. 「Can-do リスト」の形での学習到達目標との関連

○自分の興味関心のある偉人や有名人等について説明するまとまりのある文章を適切に書くことができる。
(第3学年：書くこと)

6. 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
辞書を使ったり、友だちの 表現を参考にしたりしな がら、積極的に書してい る。	自分の興味や関心のある 偉人や有名人等について 説明するまとまりのある 文章を適切に書くことが できる。	/	・接触節を使った文構造を 理解している。 ・関係代名詞を使った文構 造を理解している。

7. 単元の指導計画及び評価計画

時	○ねらい・主な学習活動	評価					
		関	表	理	言	主な評価規準（評価方法）	
						形成的評価	総括的評価
1	○本単元で身につける技能や理解 する内容を知り、単元の最後には ALTの要望に応じて、有名な日 本の偉人を紹介するレポートを作 成することを知る。 ○接触節を用いた文構造を理解す る。 ・本文を読むことから接触節を用 いた文構造を知る。 ・ペアで、持ち物やカードの絵に ついて説明する練習をする。		○		○	・接触節を用いた文構造を理 解している。（言・ワークシ ート） ・接触節を用いて持ち物や絵 について説明している。 （表現・観察）	後日ペーパーテス トをする。
2	○主格の関係代名詞 who を用いた 文構造を理解する。 ・本文を読むことで主格の関係代 名詞 who を用いた文構造を知る。 ・本文の内容を理解し音読練習を する。 ○ALTに誰を紹介するかを考え る。 ・学校司書に図書や資料を紹介し てもらい、ペンタゴンチャート を使った情報の集め方を確認する。 ・使いたい資料や図書がなければ 学校司書に相談できること、冬休 み明けまでに紹介する人物を選ん でおくことを確認する。	○			○	・関係代名詞 who を用いた 文構造を理解している。 （言・ワークシート） ・学校司書のアドバイスを聞 いて意欲的に資料を探し、人 物選びをしている。 （関・活動の観察）	後日ペーパーテス トをする。

3	<p>○主格の関係代名詞that whichを用いた文構造を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文のオーラルイントロダクションを聞いて本文の内容の要点を理解する。 ・本文を読むことをとおして新出の文構造を知る。 ・本文の内容を理解し音読練習をする。 ・ペアで新出の文構造を使って写真や物についての説明をする練習をする。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・主格の関係代名詞that whichを用いた文構造を理解している。(言・ワークシート) ・主格の関係代名詞that whichを用いた文を理解し音読できる。また、関係代名詞を使って写真や物について説明している。(表現・観察) 	後日ペーパーテストをする。
4	<p>○目的格の関係代名詞that whichを用いた文構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文のオーラルイントロダクションを聞いて本文の内容の要点を理解する。 ・本文を読むことをとおして進出の文構造を知る。 ・本文の内容を理解し音読練習をする。 ・ペアで新出の文構造を使って人や物についての説明をする練習をする。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・目的格の関係代名詞that whichを用いた文構造を理解している。(言・ワークシート) ・目的格の関係代名詞that whichを用いた文を理解し音読できる。また、関係代名詞を使って人や物について説明している。(表現・観察) 	後日ペーパーテストをする。
5	<p>○ジャッキー・ロビンソンについての英語のQ&Aに積極的に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本文リストや本文の音読練習をする。 ・本文についてのT o r F, Q&Aの活動をする。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の登場人物についての質問に積極的に答えようとしている。(関・観察) ・英語の問いを理解し、適切に答えられる。(表/理・観察) 	
6	<p>○ALTに紹介する日本人について、情報を収集し、ペンタゴンチャートに整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペンタゴンチャートに情報を書き込み、伝えたい内容を選ぶ。 ・必要な語句や表現を辞書で調べてメモしておく。 	○		<ul style="list-style-type: none"> ・自分が紹介したい日本人についての情報を積極的に収集しまとめようとしている。(関・ペンタゴンチャート) 	
7	<p>○選んだ人物についてのまとまりのある文章を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペンタゴンチャートの情報を英文に直していく。 ・導入部分では関係代名詞を使って紹介する。 	○		<ul style="list-style-type: none"> ・まとまりのある文章を書いている。(表・ワークシート) 	

8 (本時)	○読み手に伝わりやすい文章構成を意識して、まとまりのある文章を書く。 ・モデルを参考にして、自分の文章構成を見直す。 ・他の生徒の書いた紹介文の発表を聞き、良い点や工夫されている点に気づく。		○		・読み手に伝わりやすい文章構成について考え、まとまりのある文章を適切に書いている。(表・活動の観察/ワークシート)	
9	○レポートを完成させる。 ・視覚的情報を加えて、ALTによりわかりやすいレポートになるよう工夫して仕上げる。	○	○		・ALTにわかりやすく伝えられるようレポートを工夫している。(関/表・レポート)	

※後日書くことに関するパフォーマンステスト（情報をもとに人物を紹介する文を書くテスト）をする。

8. 本時の学習

(1) ねらい

○読み手に伝わりやすい文章構成について考え、ALTに紹介したい日本人について説明するまとまりのある文章を適切に書くことができる。
(外国語表現の能力)

(2) 展開

時 (分)	学習活動	教師の支援○ 評価☆
15	1 ウォームアップ ・英語での簡単なQ&Aをする。 ・読解練習（帯活動：「読みトレ100」） ①1分間黙読 ②本文の内容についての質問の答えとなる部分にアンダーラインをひく。 ③スラッシュリーディングをする。 ④本文の内容についてQ&Aをする。	○英語でのやりとりを通して、英語学習に向かう雰囲気を作る。 ○スラッシュリーディングをする。 ○質問の意味を考えながら、答えの部分にアンダーラインを引くよう支援する。
1	2 本時の目標と活動の流れを確認する 目標：選んだ人物についてまとまりのある文章構成で紹介しよう。 ・ALTからの要望を受けて、紹介したい日本人について、まとまりのある文章を仕上げていることを確認する。	○生徒に活動の見通しを持たせる。
8	3 教師が示す2つのモデル文を比べ、読み手に伝わりやすいまとまりのある文章構成について考える。 ①教師が2つのモデル文を読む。	○2つのモデルを示し、生徒の気づきを促す。

20	<p>②内容的にまとまりがあり、続きを読んでみたいと感じるのはどちらの文章か、またなぜまとまりがあるのか、ペアで話し合う。</p> <p>③ペアで話したことを発表する。</p> <p>4 前時の学習で書いた下書きの文を見て、文章構成をし直す。</p> <p>①個人で構成しなおす。</p> <p>②ペアで発表しあう。</p>	<p>○まとまりのある文章を適切に書くうえでのポイントをまとめる。</p> <p>○生徒の気づきを大切に評価する。</p> <p>○とまどったりつまづいている生徒に声をかける。</p> <p>○互いの文章を認め合う雰囲気の中で発表できるよう声をかける。</p>
<p>☆読み手に伝わりやすい文章構成について考え、まとまりのある文章を適切に書いている。 (外国語表現の能力)</p>		
5	<p>5 数名の英文の発表を聞く。</p> <p>①教師の指名で数名の英文を実物投影機で映し出す。</p> <p>②良い点や工夫されている点を確認する。</p>	<p>○意図的に配慮した指名をする。</p> <p>○全体の参考となるよう、良い点や工夫されている点を紹介する。</p>
1	<p>6 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しを持つ。</p>	<p>○活動全体をとおして、良かったところを具体的に挙げさせたり指摘したりして、次時への意欲付けをする。</p>

(3) 本時の評価

観点	おおむね満足と判断される生徒の具体例	努力を必要とする生徒への指導の手立て
外国語表現の能力	ALTに紹介する日本人について、関係代名詞を用いながら、文のまとまりを意識して10文程度の英文を適切に書くことができる。	書きたい内容を確認し、関係代名詞の用法を復習させながら、紹介したい日本人についての関係代名詞を含んだ英文を書くことができるよう支援する。

●授業研究の視点

- ・モデル文を比較してペアで話し合ったことは、自分の文章構成を見直す手立てとして有効であったか。
- ・図書資料から読み取った情報を整理し活用するためにペンタゴンチャートを使ったことは、まとまりのある文章を書くうえで有効であったか。